

【複数年度(1年目)】多様なニーズに対応し、新たな賑わい創出に資する道路空間利活用の社会実験 (北海道札幌市)

1. 実験概要、留意すべき項目

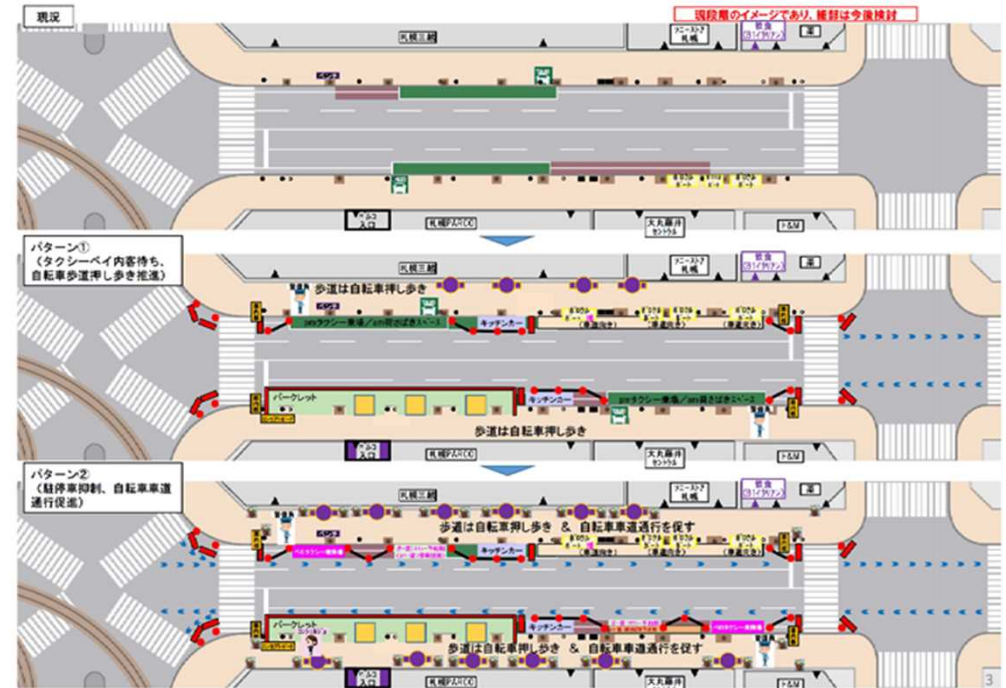
- ・ 歩行者滞在空間・モビリティ空間と荷さばき空間のタイムシェアを検証する。
- ・ 道路空間の時間帯別運用(タイムシェア)の検討に結びつく実験となっていること。

2. 今年度の調査内容、調査結果

- ① 地域動向調査、および各種事例調査
⇒ Tゾーン(南1条通、札幌駅前通)の計画概要を調査
⇒ 全国の道路空間利活用に関する各種取組を調査
- ② 現地状況調査
⇒ 実験対象箇所を中心に現地踏査
- ③ 関係各所への聞き取り調査
⇒ 沿線事業者、各種関係機関、および有識者にヒアリング



現地状況調査



実験の実施イメージ

3. 次年度の社会実験に向けて

実験メニュー	実験内容
2車線化による歩行者滞在空間等の創出	パークレット、ベイ形式タクシー停車空間、シェアサイクルポートの設置、キッチンカーの誘致
歩行者滞在空間等におけるタイムシェアの導入	昼間～夕方: パークレット、キッチンカー設置し、歩行者滞在空間、賑わい空間として運用 夜: 歩行者滞在空間を荷捌き時の荷物スポットとして運用

【複数年度(1年目)】多様なニーズに対応し、新たな賑わい創出に資する道路空間利活用の社会実験 (北海道札幌市)

4. 今後のスケジュール

- 令和4年 4月～6月: 実施計画、実施内容の詳細検討
- 令和4年4月～6月: 各種申請、必要備品準備
- 令和4年6月: 実験の実施、運営
- 令和4年4月～7月: 事前調査実施、利用者アンケート等実施
- 令和4年6月～7月: 各種統計データ等分析

5. 意見と検討、対応方針

意見	意見に対する検討、対応方針
本実験内容を検証するには1週間の実験では短いのではないかと。期間を伸ばし複数パターンの検討を提案する。 歩道部の安全性向上にむけ、車道に自転車の通行空間を確保してはどうか。また、実験区間のシェアサイクルポートも車道向きが望ましい。 現地を見るとタクシーの停車状況は課題である。課題解決に向け、実験区間のタクシーの客待ちを抑制した場合、周辺への影響把握も必要である。	実験期間を2週間とし、タクシー客待ち車両の有無、自転車の通行空間確保を考慮した複数のパターンについて実験を通じ検証を行う。
効果計測について、アンケートや現地でのカウント調査だけでなく画像処理やGPS機能、ICT技術などの活用も検討してほしい。	AIカメラ等の画像処理技術を用いた効果の計測を行う際には、個人情報保護の観点から、札幌市で策定しているガイドラインに準拠する必要がある。このため、申請段階では記載を見送っていましたが、引き続き、検討を進めていく。現在AI画像処理技術について情報収集を行いつつ、札幌市と協議、調整を行っている状況である。
歩道の車道側における食事施設等の占用について、車両通行による食事施設等の利用者の安全性への影響(体感を含む。)を検証されたい。	本実験で創出する歩道上の滞在空間(パークレット等)の利用者に対して、周辺を通行する車両の影響、安全性評価についてのアンケート調査を実施する。
本実験は、車線の減少を伴う内容であり、周辺道路における交通渋滞及び路上駐車増加等が懸念されることから、事前に地域住民、道路利用者等の合意形成を図るとともに、警察本部及び所轄警察署との協議を行う必要がある。	北海道警察のほか、実験対象区間沿線・周辺の商店街、当該区間周辺を利用する交通事業者(ハイヤー協会、トラック協会、バス協会)には既に実験内容を説明済みである。今後、現地実験を開始する前に、札幌市の広報媒体(スマホアプリ等)、ポスター、SNSなどにより、市民、道路利用者へ周知する。
本実験に伴い、道路上に工作物を設置する場合は、道路使用許可の対象となる可能性があることから、事前に所轄警察署と調整を行う必要がある。	本実験において道路上に工作物を設置することについては、北海道警察と事前に協議し、概ねの合意を得ている。現在、道路使用許可の申請に向け、検討中の実験内容を踏まえ北海道警察と協議・調整中している状況である。

6. 評価

- ・ 協議会構成メンバーから合意を得て、順調に実験が進んでいる。
- ・ 次年度の実験内容が具体化されているため、継続して実験を行うことが妥当と考える。